

国際協カイニシアティブ(経緯)

□政府開発援助(ODA)における課題

- 貧困、感染症、災害、平和構築、エネルギー、環境等の地球的規模の課題への対応
- 我が国ODAにおける量から質への転換
- 良好な外交関係構築のためのODAの戦略的な実施

□我が国の教育における課題

- 教育全般を通じた国際化・グローバル化への対応
- アジア地域を中心とした高等教育需要への対応
- 国際開発協力への参画を通じた我が国の教育改善・大学改革

国際教育協力懇談会報告 2006
大学発 知のODA ~知的国際貢献に向けて~

課題に対応するための**知的国際貢献**の必要性 / 我が国ODAにおける**大学が有する「知」**の活用

『**国際協カイニシアティブ**』の実施

□目的

- (1)大学の社会貢献活動として、相手国からの要請主義で大規模プロジェクト 中心のJICAでは実施できないような開発途上国支援に、組織的に参加
- (2)教員及び学生の実践的な活動により、開発途上国支援に携わる人材や、将来 JICAのプロジェクトに参画できる人材の発掘・養成

国際協カイニシアティブ(体制)

—『国際協カイニシアティブ』委託事業と二つの支援事業—

□事業概要

我が国の大学教員等がこれまでの教育・研究の中で得た専門知識や経験をまとめて、開発途上国の現場で国際協カに携わる人々に役立つ教材等を作成することで、開発途上国が直面する貧困、災害、環境などの課題への対応に貢献する。また、こうした取組を通じて、大学における国際協カ活動の企画・実施を担当する人材の発掘・育成に努めるとともに、学生を参加させることで、学生に国際的な視野を身に付けさせるなど、より多くの日本の大学が国際協カ分野に参画することを支援する。

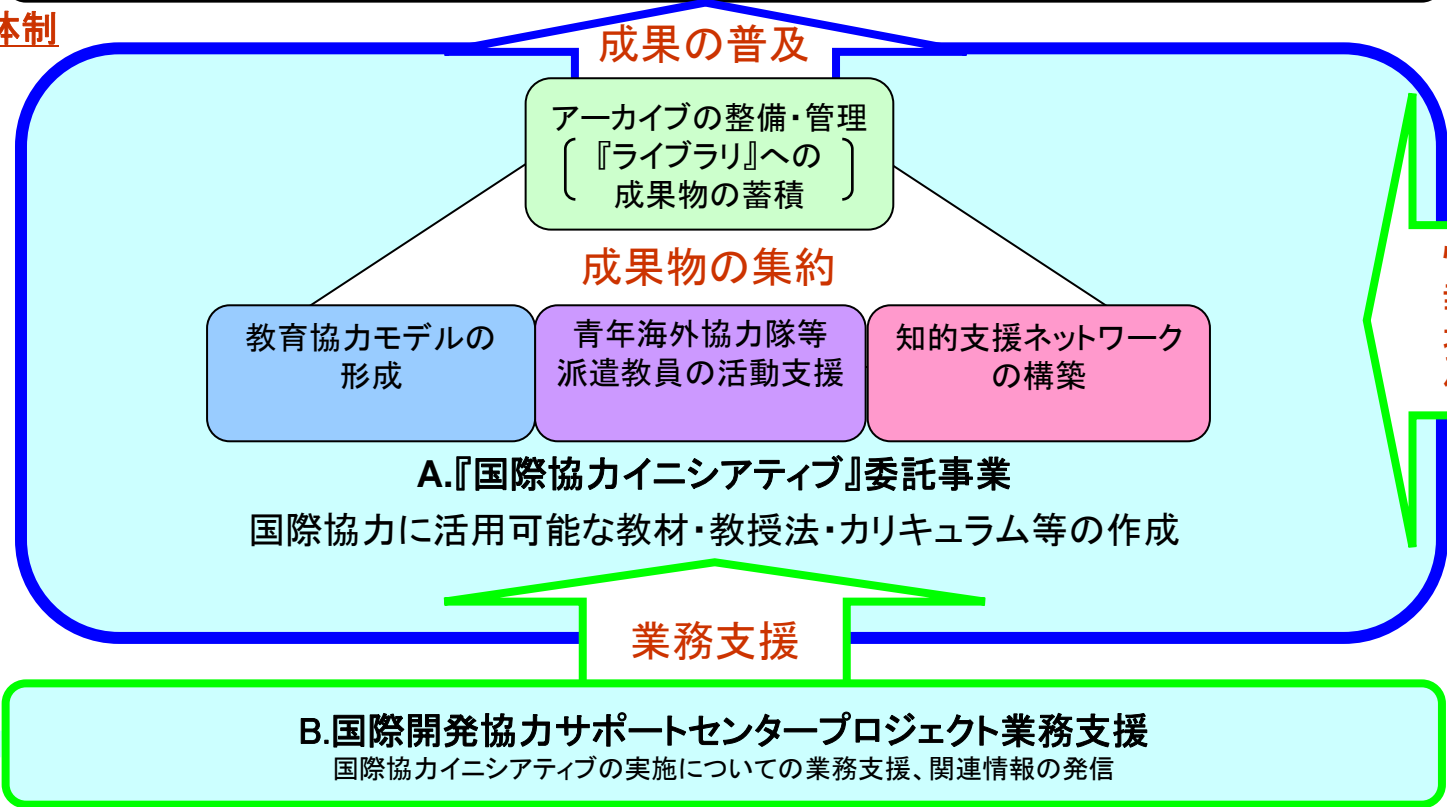
□期待される成果

国際協カ関係者(援助機関、大学、NGO、途上国政府等)による成果の活用
—国際協カの質の向上、国際貢献—

□実施体制

関連情報の発信

- ・報告会
- ・シンポジウム
- ・フェスティバル
- ・メーリングリスト



C. APEC等国際的なネットワークにおける教育協カに関する調査研究

国際協カイニシアティブ(概要1)

—『国際協カイニシアティブ』委託事業の活動分野—

A. 『国際協カイニシアティブ』委託事業(121百万円)

1. 教育研究成果の活用

(1)教育協力モデルの形成

開発途上国の現場で国際協力に取り組む人達が活用できるように、大学などが、これまで取り組んできた教育・研究を通じて培った専門知識や経験をまとめ、現地の大学、NGO等協力者と協働してカリキュラム、テキスト、マニュアル、教材などを作成する。作成した成果物は現地で有効性を検証する。

(2)青年海外協力隊等派遣教員の活動支援

活動内容は(1)と同じ。青年海外協力隊・日系社会青年ボランティア・シニア海外ボランティアとして開発途上国に派遣される教員が、派遣前や派遣中、また帰国後に現地での経験を活かして活動する際に役立つ取組に特化したもの。

(3)知的支援ネットワークの形成

研究分野別に、大学を中心とした協力の枠組みを形成することで、単独の組織では充分に対応できない開発途上国からの協力要請にも効率的・効果的に対応できる体制を整える。複数大学で連携して国際協力機構(JICA)の実施する研修の受け皿と成るなど活動実績を積み、将来的には開発途上国からの協力要請の窓口となる。

2. 成果物の公開

(4)アーカイブの整備・管理

国際協力関係者が活用できるように、上記(1)~(3)で作成した成果物や関連資料を公開する専用HP「国際協カイニシアティブ『ライブラリ』」の管理運営。

国際協カイニシアティブ(概要2)

—『国際協カイニシアティブ』委託事業を支える二つの事業の概要—

B.国際開発協カサポートセンタープロジェクト業務支援(27百万円)

□事業概要

『国際協カイニシアティブ』の実施に係る管理運営業務

□活動内容

国内報告会の開催	個別事業の1年間の活動成果を発表する「国内報告会」の開催(年2回)
教育協力戦略策定のための情報の収集・整理	文部科学省において、今後の国際協力の進め方の検討にあたり必要となる情報の収集・整理
国際協力活動に関する情報の収集・整理等	文部科学省において、国際協力の進め方の検討にあたり必要となる国内大学の国際協力活動に関する情報の収集・整理
広報	事業紹介用パンフレットの作成、国際協力関係団体が実施するイベントへの出展、メーリングリスト等の活用を通じた事業及び事業成果の広報

C.APEC等国际的なネットワークにおける教育協力に関する調査研究(6百万円)

□事業概要

APEC等の諸会議における我が国の情報の発信・意見表明を通じて教育協力を行うと共に、会議で得た情報を収集・分析

□活動内容

アジア・太平洋地域動向に関する情報提供	諸会議等への出席を通じた情報収集により、国際協力についてのニーズ等を収集・分析するとともに、その情報を共有する。
---------------------	--

平成21年度 活動対象地域一覧

- 【凡例】**
- 教育研究に関する我が国の経験の活用
 - 持続可能な発展のための教育(ESD)の推進
 - 青年海外協力隊等派遣教員の支援
 - 知的支援ネットワークの形成
 - 関連情報の整備・管理

名古屋大学 (CALE)
社会科学を学ぶ留学生のための基礎教材開発
対象国▶ウズベキスタン・モンゴル・ベトナム・カンボジア

大妻女子大学
学校保健分野における国際協力モデルの構築と自立支援
対象国▶ミャンマー、タイ、ネパール

神戸大学
サブサハラアフリカの初等教育普及政策下における教育の質に関する比較分析
対象国▶ケニア、ガーナ、マラウイ、ウガンダ

宮城教育大学
海外教育協力者に対する教育実践指導と教育マテリアルの支援
対象国▶ブルキナファソ、グアテマラ

愛知原立大学
日系社会青年ボランティア(現職教員特別参加制度)活動支援のための教育協力システムの形成
対象国▶ブラジル

北海道教育大学
ザンビアの基礎学校におけるESDモデル単元教材の開発
対象国▶ザンビア

国際基督教大学
日本と南アフリカの小中学校連携を軸とするESDモデルの構築実践の試み
対象国▶南アフリカ

愛媛大学
モザンビークと日本との協働によるグローバル倫理形成を目指すESD教材の開発
対象国▶モザンビーク

宮城教育大学
勸学館を活用したマダガスカルのESDパイロットマテリアルの構築
対象国▶マダガスカル

大阪大学
アジアにおけるESD国際協力カリキュラムの開発—高等学校を中心として—
対象国▶タイ、フィリピン、中国、韓国

東京農業大学
開発途上国の初等教育における食環境教育の普及と推進モデルの構築
対象国▶カンボジア

愛知教育大学
開発途上国の産業技術教育を支援するコアカリキュラム提供システムのモデル構築(実習テキストの作成)
対象国▶フィリピン

日本赤十字九州国際看護大学
アジアの開発途上国の拠点大学/学校における「災害看護学」教育導入への支援
対象国▶ベトナム

三重大学
持続可能な教育(ESD)の理念に基づいた途上国における地域医療教育モデル導入と普及
対象国▶タイ、タンザニア、ラオス、アラブ首長国連邦

横浜国立大学
RCE国際連携によるESD人材育成プログラムのモデル構築
対象国▶マレーシア、フィリピン

教育協力 NGO ネットワーク(JNNE)
教育協力プロジェクトのモニタリング・評価指導ガイドブックの開発—学校教育編(初年度)
対象国▶日本

名古屋大学 農学国際教育協力研究センター(ICCAB)
農学知的支援ネットワークによる科学技術協力モデルの構築
対象国▶日本

筑波大学 教育開発国際協力研究センター(CRICED)
[国際協カイニシアティブ]教育協力拠点形成事業全体に係る成果品の収集と管理
対象国▶日本

北海道大学
持続可能な発展に向けた教育にむく大学の価値と魅力を伸ばす評価モデルづくり
Creation of the Alternative University Appraisal Model based on Education for Sustainable Development
対象国▶アジア・太平洋地域

筑波大学 教育開発国際協力研究センター(CRICED)
青年海外協力隊必携としての日本の教育情報の整備と活用
対象国▶マーシャル諸島

日本大学歯学部
開発途上国の地域ニーズに対応した口腔保健システムの構築のための教育支援
対象国▶ラオス

名古屋大学 農学国際教育協力研究センター(ICCAB)
開発途上国における拠点大学を中心とした農産物加工産業振興モデルの構築とその普及
：商品化に向けた生産業者のグループ化・品質管理、販路開発のための生産量確保を目標として
対象国▶カンボジア

皇族技術科学大学 工学教育国際協力研究センター(ICCIED)
産学連携による開発途上国の大学工学部の機能強化(第3年度)
対象国▶スリランカ

